

今号は、「①いの健京都センター第26回定期総会、②アスベスト京都の会第11回総会、③この間の働くもののいのちと健康をめぐる内外情勢のザッピング、④今月のお勧めの2冊」です。

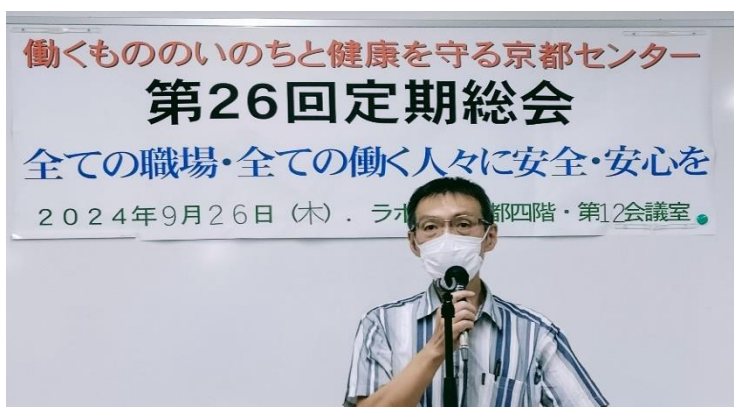
I 働くもののいのちと健康を守る京都センター第26回定期総会開催（速報）

台風10号襲来で延期となっていた「いの健京都センターの第26回定期総会」が、9月26日の夜、ラポール京都四階・第12会議室で開催されました。



吉田努事務局次長（京都民医連・城南診療所）の開会あいさつの後、総会議長に吉岡勝代議員（京都総評）を選出し、総会は進められました。福水隆理事（化学一般）が資格審査の報告と議事次第の提案を行いました。参加は、最終で、代議員が加盟36組織46代議員中18人の現出席、26人の委任出席（欠席0）で、役員（理事・会計監査）が20人中16人の出席でした。

河本一成理事長（京都民医連・あさくら診療所）が理事会を代表してあいさつ。河本理事長は、地震に続いて豪雨災害に見舞われた能登半島のみなさんにお見舞いを述べた後、新型コロナの現状について触れ、医療費負担をゼロにすることの重要性を強調。ジェンダー平等で公正な社会は、戦争が起こらない社会であり、「よりよい社会を創るためにわたしたちは何をするのか!？」が問われているとして、活発な討論を呼びかけました。



議案提案は、1号議案「2023年度事業報告」と3号議案「2024年度事業計画（案）」を岩橋祐治事務局次長（個人・員外）が、2号議案「2023年度決算報告」と4号議案「2024年度予算（案）」を芝井公事務局長（京都職対連）が、「2023年度会計監査報告」を長尾修会計監査（京都府立高教組）が行いました。

議案討議では、7人の理事・代議員が発言しました。

- ① 京都民医連・松田貴弘代議員（京都民医連）：豪雨災害に見舞われた輪島に行ってボランティアをしてきた。地震引き続き水害に見舞われ、“心が折れる”状況だ。災害に対する住民のいのちと健康を守るため、われわれは何ができるのかを考えるべきだ。有機フッ素化合物PFASの問題は重要だ。全国いたるところで被害が出ている。アメリカの基準を超えているのに、国や自治体は住民の検査に後ろ向きだ。

- ② **新田昌之副理事長**（京都職対連・自治労連）：宇治のユニチカで働いていた河合さんのアスベスト被害、8月に集会を開催し、裁判も始まった。ユニチカ相手の闘いも始まるのでよろしく！ 京都市職員の転倒事故が公務災害と認められないのは問題だ。京都市立病院でも公務災害と認められない事案が発生している。地方公務員災害補償基金京都市支部に対する闘いを強化したいのでよろしく！
- ③ **馬場勝幸代議員**（京都府立高教組）：教職員の働き方改革の問題、「1日7時間・週35時間」といった旗じるしを鮮明にした闘いが重要だ。関西財界の部長クラスと意見交換したが、若者とのコミュニケーションや教育の問題で、彼らにも矛盾があり、一致点での共同の可能性がないこともない。○先生の公務災害の問題、闘っている中で本人は元気になって来ている。筋を通して闘うことが重要だとあらためて痛感した。ハラスメントアンケートをしたが、7割の未組織労働者、6割の20代・30代の教職員から協力を得られた。心が通う人間関係を構築していくことが大切だ。
- ④ **片岡純人代議員**（京建労）：建設アスベスト裁判支援のお礼。自治体意見書採択運動の報告。府下27自治体中23自治体で採択された。残り4自治体だ。八幡市庁舎の解体工事では、25億円の予算が、アスベストが見つかったため40億円となった。改修・解体工事におけるアスベスト除去費用は大きく、「なかったことにしよう」ということになりかねない。国・自治体からの補助の強化と罰則の強化が必要だ。
- ⑤ **伊東純平理事**（京建労）：建設アスベスト裁判の現状報告。東京で和解案が提示されようとしている。2012年の神奈川地裁での全敗からここまで来た。国の責任による救済については、石綿給付金法で申請すれば支払われるようになったが、企業は裁判で負けるまでは一銭たりとも支払わないという姿勢だ。アスベスト建材メーカーも巻き込んだ給付金制度に改正させる必要がある。解体工や屋外工が最高裁判決において救済から外された。建材上の危険表示が長年の使用で消えているので、企業責任は問えないとされたが、京建労が行った実態アンケート調査では圧倒的に消えていないということが証明されたので、裁判で証拠として提出し主張していく。
- ⑥ **福島功代議員**（京都自治労連）：自治体労働者の長期病休、この20年間で5倍になっている。自治体労働者は40万人も減っている。時間外労働が増えており、労基法33条の「災害等により臨時の必要がある場合」は例外扱いされることが、抜け穴に使われている。増員とともに法改正を求めて闘っている。公務災害の認定で公務外とされ闘っている案件は全国で4件あるが、その内2件が京都市だ。10月9日にハラスメント学習会をする。カスタマーハラスメントが公務職場でも問題となっているが、主権者としての地域住民の意見・要望との兼ね合いもあり、線引きがむずかしい。
- ⑦ **星琢磨代議員**（京教組）：教員の新規採用で、就活ハラスメントがあった。「府内どこでも働けるか」「結婚・出産のご予定は」と聞かれている。職場のローアン活動では、中・小学校では50人未満ということで、衛生委員会の設置・産業医の配置・ストレスチェックの実施などで差別的取扱いがある。今後の給特法改正をめざす闘いでは、時間外手当の支払い・定員増などすべての教職員の処遇改善につながるようがんばりたい。

岩橋事務局長が**討論のまとめ**を行い、それを受けて全議案を満場の拍手で採択しました。

2024年度の役員の提案と承認が行われ、退任した3人の理事（京都放送労組・今道正樹さん、福祉保育労京都地本・谷本樹保さん、京都新聞労組・藤松奈美さん）が退任にあたってのあいさつをされ、新役員を代表して河本一成理事長が決意表明を行いました。

最後に、**梶川憲副理事長**（京都総評）が、「11月22日の過労死防止シンポジウム（京都会場）にご参加を。労働基準法改悪との闘いは、職場を基礎に、全労連が提起している『対話と学び合い』を大切にして、闘っていく。乙訓の医労連の職場では、非正規が増えて過半数組合でなくなり、過半数代表選挙が必要となったときに、非正規の労働者に働きかけて、23人の組合加入を勝ち取った経験も生まれている。」と**閉会あいさつ**を行って、第26回定期総会を終えました。

Ⅱ アスベスト京都の会（アスベスト被害の根絶をめざす京都の会）第 11 回定期総会

9月25日の夜、いの健京都センターも加入しているアスベスト被害の根絶をめざす京都の会（アスベスト京都の会）の第11回総会が、ラポール京都の会議室で開催されました。第11回総会では、松原秀樹事務局長（京建労書記次長）が議案の提案を行うとともに、学習会「建物解体・改修における問題点と課題」の講演も行いました。松原事務局長は、①大気汚染防止法（大防法）や石綿障害予防規則（石綿則）などの主なアスベスト規制の変遷、②建物における石綿の使用状況、③川崎市の木造建物を中心とした石綿事前調査ハンドブック、④石綿調査・除去等に関する費用について説明した後、⑤課題として、⑦除去作業中の監視が不十分で、除去業者のライセンス制度がないこと、①第三者による完了検査が行われていないこと、⑨日常的な建物の石綿管理が行われていないこと、④規制法規の実効性の担保が不十分なこと（財政支援や罰則の強化が必要）をあげました。また関西建設アスベスト訴訟京都弁護団の大河原壽貴弁護士が、「アスベスト訴訟の到達と課題」について報告しました。大河原先生は、①建設アスベスト訴訟のこれまでの主な経過、②全国の訴訟の状況を説明し、③アスベスト訴訟での到達と課題として、⑦国に対しては一人親方も含めてその責任を認めさせ（屋外作業従事者を除く）、石綿被害給付金制度を作らせたこと、①企業に対しては企業責任が確定した最高裁判決後も建材メーカーは責任逃れのため引き続き争っていて、引き続き裁判でたたかう必要があるとともに、建材メーカーにも提出させた給付金制度の改善を勝ち取る必要があること、③最高裁が否定した解体・改修作業や屋外作業に従事した者の救済を勝ち取る必要があることを強調しました。総会では、石原一彦立命館大学政策科学部教授を会長に再任するとともに、京建労の伊東純平常駐執行委員を新しく事務局長に選出しました。参加は、会場に14人、オンラインで2人の合計16人でした。



学習テキスト「いの健&ローアンの入門と基礎」を ご活用・ご利用ください！

いの健京都センターは、京都総評と共催で、30年間に渡って、「京都労働安全衛生学校」を開催してまいりました。2024年の6月に第31回となる京都労働安全衛生学校を開催しましたが、その内容を今回テキストにしました。

今日の厳しい出版状況を踏まえ、いの健京都センターのホームページ (<http://www1.ocn.ne.jp/~inoken/>) から無料でダウンロードできるようにしましたので、積極的なご活用・ご利用を心からお願いします！

また、このテキストを使った学習会を開催する場合には、講師派遣も行いますのでご相談ください！

- 第1講義「労働安全衛生法の基本と職場のローアン活動の進め方」
- 第2講義「これって労災？～労災保険法入門」
- 第3講義「ハラスメント防止法と職場のハラスメントをなくすとりくみ」



Ⅲ この間の働くもののいのちと健康をめぐる内外情勢のザッピング

1 国連総会、イスラエルの占領終結を求める決議を採択

9月18日開催された国連総会は、「イスラエルにパレスチナの占領を一年以内に終結させることを求める決議」を、日本を含む124カ国の賛成、イスラエルやアメリカなど14カ国の反対、イギリス・ドイツなど43カ国の棄権で採択した。なお、パレスチナのガザ自治区では、9月9日に新学年を迎えたが、学齢期の子ども62万5千人が学校に通えていない。



また、9月17日、アメリカのウォール・ストリート・ジャーナル紙は、ロシアのウクライナ侵攻による死傷者が100万人を超えたと報じた（ウクライナ側で8万人の死者と40万人の負傷者、ロシア側で20万人近くの死者、40万人前後の負傷者と推定）。

2 2025年度予算概算要求

8月30日、財務省は2025年度予算編成に向けた各省庁からの概算要求を締め切った。一般会計の要求総額は約117兆円で24年度の114兆4千億円を上回り、2年連続で過去最大を更新した。長期金利の上昇による国債利払い費の増額と軍事費の大幅増が要因。軍事費は8兆5千億円、安保3文書にもとづく大軍拡によってこの3年で1.6倍と急増し、文教費の2倍となった。



3 2023年度法人企業統計～大企業の内部留保は539兆円、配当金は32.5兆円に！！～



9月2日、財務省は、2023年度の法人企業会計を発表した。それによると、資本金10億円以上の大企業（金融業と保険業を含む全産業）の内部留保は、539.3兆円と過去最大を更新した。第2次安倍内閣が発足する直前の2012年度の内部留保額333.5兆円からは200兆円以上増加した。経常利益・配当金もそれぞれ76.3兆円・32.5兆円と過去最高に。12年度と比べると経常利益は2.1倍、配当金は2.4倍。一方労働者の一人当たり賃金は633.4万円と、12年度の比較では1.1倍に過ぎない。

4 2024年度の地域別最低賃金の改定と人事院勧告

8月29日、2024年度の地域別最低賃金の改定に関する、すべての都道府県の地方最低賃金審議会の答申が出そろった。目安額50円より上積みをしたのは27県で、全国加重平均で51円の増加、現行1004円から1055円への引き上げとなった。最高は東京の1163円、最低が秋田の951円で、格差は8円縮小の212円に。京都は目安額どおりの50円の引き上げで、1008円から1058円に。徳島は知事が意見陳述を行うなどもあり目安額から異例の34円の上積みを行った。

2024年度改定後の最低賃金（時給）
※単位は円

A	区	分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

8月8日に出了た2024年度の国家公務員の給与等に関する人事院勧告の概要は、以下の通り。

- ① 月例給与：平均1万1183円（2.76%）引き上げ。一般職の初任給を高卒2万1400円、大卒2万3800円引き上げ。
- ② 一時金：現行の4.5か月分を4.6か月に引き上げ。
- ③ 地域手当：京都府全域が8%（4級地域）に（京都市は10%から8%への引き下げ）。
- ④ 配偶者の扶養手当の廃止、子の扶養手当の増額、再任用職員への生活関連手当の支給拡大、等々。

5 教員の働き方に関する中教審答申

8月27日、文部科学相の諮問会議である中央教育審議会は、「質の高い教師の確保に向けた総合的な方策について」を答申した。「**月給の4%を支給している教職調整額を10%以上に引き上げる**」よう提言した。全教・京教組などは、「①教職員の定数増について、基礎定数の改善ではなく、加配定数の改善で通っていて、教育予算の大幅増を求めている、②長時間労働の法的な歯止めとなる超過勤務手当支給を否定している、③学校現場の指揮命令系統を強化しようと、新たな職と、新たな職に対する給料表の新たな級の創設を提起している」と批判している。



6 フリーランス新法が11月施行

業務委託契約で働いている、いわゆる「フリーランス」が、「安心して働ける環境を整備する」として、「フリーランスと企業などとの発注事業者の間の取引の適正化」と「フリーランスの就業環境の整備」を目的とした「**フリーランス・事業者間取引適正化等法**」が、11月1日に施行される。

○ フリーランス新法の内容

- ① 書面等による取引条件の明示
- ② 報酬支払期日の設定・期日内の支払
- ③ 禁止行為（i 受領拒否、ii 報酬の減額、iii 返品、iv 買ったとき、v 購入・利用強制、vi 不当な経済上の利益の提供要請、vii 不当な給付内容の変更・やり直し）
- ④ 募集情報の的確表示
- ⑤ 育児介護等と業務の料率に対する配慮
- ⑥ ハラスメント対策に係る体制整備
- ⑦ 中途会場との事前予告・理由開示

※ 契約の名称が「業務委託」であっても、**フリーランスの働き方の実態が労働者である場合は、当然のこととして、労働基準法をはじめとする労働者保護法が適用されます！**

7 北陸新幹線延伸計画（敦賀～大阪間）の「小浜ルート」の3案明らかに

8月8日、国土交通省は、与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチームの会合で、北陸新幹線延伸計画（敦賀～大阪間）の「小浜ルート」の詳細経路3案を明らかにした。将来の物価上昇も見込んだ事業費用は最大で5.3兆円にも及んでいる。8月20日、松井京都市長は、財政負担や、環境・水源への影響などの課題を挙げて、「厳しく慎重に判断せざるを得ない」と強い懸念を表明した。



8 2024年は過去最も暑い夏に！



9月1日、気象庁は、2024年の夏の期間（6～8月）の日本の平均気温が、**1898年から統計を開始して最も暑い夏となった**と発表した。これまでの夏の平均気温と比べて、2023年に続いて、**1.76℃**高かったとしている。

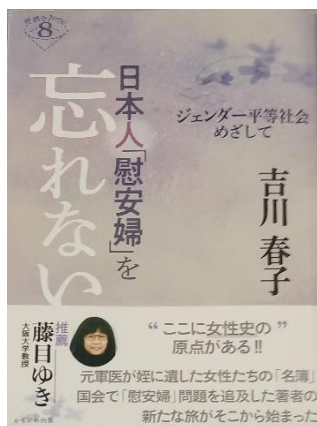
過労死等防止対策推進シンポジウム（京都会場）のお知らせ

- 2024年11月22日（金）午後1時30分～4時20分
- 池坊短期大学・洗心館・地下1階「こころホール」（下京区四条室町鶏鉾町491）
- 基調講演「過労死・ハラスメントをなくすために」（川人博弁護士）、過労死遺族からの体験談の発表、その他
- 主催：厚生労働省・京都労働局、協力：過労死防止京都連絡会
- * 申し込みは、厚生労働省の「過労死等防止対策推進シンポジウム」のホームページからどうぞ！！

IV 今月のお勧めの2冊：「日ソ戦争—帝国日本最後の戦い」「日本人『慰安婦』を忘れない—ジェンダー平等社会をめざして」

9月17日に、文化庁が発表した2023年度の「国語に関する世論調査」の結果によれば、「1か月に1冊も本を読まない」と答えた人が62.6%、「読書量が減っている」と答えた人も69.1%に及んでいます。間もなく2024年秋の「読書週間」（10月27日㊥～11月9日㊦）を迎えますが、読書の“知り、考え、学ぶ”面白さを広げたいとあらためて痛感する次第…ということで今月は、今年の暑い夏に編集者が読んだ戦争と平和に関する本を2冊、関連する本を3冊紹介させていただきます。

まず最初に、麻田雅文さん（岩手大学人文社会科学部准教授）の「**日ソ戦争—帝国日本最後の戦い**」（中公新書、2024年4月初版、980円＋税）。「日ソ戦争」について、新書の帯には、「第2次世界大戦、最後の全面戦争—玉音放送後も続けられた、ロシアが戦後を見据えた戦い」「短期間ながら、両軍兵力200万を超えた激闘」とあります。日本では、第二次大戦はアメリカとの太平洋戦争を中心に語られることが多いですが、日ソ戦争は日本の敗戦を決定づける最後の一押しとなっただけでなく、シベリア抑留・中国残留孤児・北方領土問題につながる戦争であり、広くは、朝鮮半島の分断や満州で始まった国共内戦ともつながる戦争であり、戦後の東アジアの平和を語る上で決定的な影響を与えた戦争です。当時の日米ソの国家戦略とそれにもとづく満州と朝鮮、南樺太、千島列島における軍事行動、戦後のシベリア抑留を含むソ連の対日戦略について書かれています。本書との関連で、高い本ですが加藤聖文さん（駒澤大学文学部教授）の「**海外引揚の研究—忘却された『大日本帝国』**」（岩波書店、2020年11月初版、5400円＋税）もお勧め。本の帯には、「初めて明らかになる海外引揚の全容—長らく忘却・封印されてきた300万人を超える植民地・占領地からの引揚。その全容と日本の脱植民地化の特質を、国内外の一次資料を基に解明する。」とあります。



もう一冊は、日本共産党の参議院議員を長らくされていた吉川春子さんの「**日本人『慰安婦』を忘れない—ジェンダー平等社会をめざして**」（かもがわ出版、2023年5月初版、1700円＋税）。吉川さんは、「日本人『慰安婦』が一人も名乗り出ないのはなぜか？」という問題意識の下、ビルマ従軍の日本人「慰安婦」の独自調査を行い、「政府が女性を集め、前線に送り出したこと」、「背景に遊郭（近代公娼制度）の暗い歴史があったこと」、そして「敗戦後もアメリカ進駐軍に多くの女性を差し出したこと」を明らかにしています。そして、日本人「慰安婦」問題は日本女性の人権問題であり、ジェンダー平等社会実現は日本人「慰安婦問題」の解決なしにはありえないと強調されています。関連して芝田英明さん（立教大学コミュニティ福祉学部教授）の「**占領期の性暴力—戦時と平時の連続性から問う**」（新日本出版社、2022年12月初版、2200円＋税）と平井和子さん（一橋大学ジェンダー社会科学研究センター客員研究員）の「**占領下の女性たち—日本と満州の性暴力・性売買・『親密な交際』**」（岩波書店、2023年6月初版、3000円＋税）もお勧め。前書の「はじめに」には、「本書は、性暴力における戦時と平時の連続性を、それらの根底にある性的自由権、性的自己決定権、性的人格権に着目し、日本政府が肝いりで設置した占領軍兵士の性的『慰安』を目的とした『特殊慰安施設協会』の設置の経緯や、同施設設置に関わった人々、当時の文人やジャーナリストのエゴ・ドキュメントを通じて分析した。」とあります。後書の「帯」には、「危機に際し、女性を差し出す国に生きて—敗戦、被占領という未曾有の国難のもと、同時進行的にふるわれた巨大な性暴力。貴重な資料と証言からその内実をつまびらかにし、被害女性たちの声を戦後史の暗闇から掬い出す」とあります。今月紹介した5冊は、どれも、ぜひ「読んで、知って、考えてほしい」本です。

